

**第1回（仮称）リニア山梨県駅前エリアの
まちづくり基本計画検討委員会
議事概要**

日時：令和6年1月15日（月）10:30～12:00

場所：アイメッセ山梨 4階大会議室

【出席者】 ※敬称略

（委員長） 佐々木 邦明 早稲田大学理工学術院 教授

（委員） 秦 康範 山梨大学工学部 准教授

野原 卓 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授

手塚 伸 公益財団法人やまなし産業支援機構 理事長

花田 智 甲府商工会議所 理事・事務局長

村松 久 公益社団法人やまなし観光推進機構 専務理事

篠原 勇 一般社団法人山梨県バス協会 専務理事

菊島 貴 一般社団法人山梨県タクシー協会 常務理事

（オブザーバー） 伊良原 仁 山梨県県土整備部 リニア推進監

小倉 弘崇 東海旅客鉄道株式会社

中央新幹線推進本部企画推進部 副長（代理出席）

（事務局） 甲府市リニア政策課・日本工営都市空間株式会社

【次第】

1 開会

2 本委員会の概要

3 委員長選出

4 議事

議事 1 （仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針について

議事 2 リニアが開通する時代を見据えた人々の行動パターンについて

議事 3 その他

5 閉会

【内容】

議題1 (仮称) リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針について

○委員からの意見、質問なし

議題2 リニアが開通する時代を見据えた人々の行動パターンについて

○委員

山梨の魅力が高まることによって、山梨を拠点に生活し、仕事は東京に行く人を増やす必要がある。現状、県外に拠点を置き、通勤通学で山梨に来る人が多いと感じる。また、モータリゼーションの発達により、甲府の支社や支店が減っているため、仕事で山梨に来てはいるものの、日帰りが多く、山梨にほとんどお金を落とさない。様々な環境を整備し、企業も山梨に拠点を置く状況に変える必要がある。地域の魅力を高めることで山梨に拠点を置く人が増えるための検討を行っていただきたい。

○委員

県の乗降客数の推計値はあるが、最終的には推計通りになるかは誰もわからないため推計値も参考にしながらも、リニア駅周辺にどの程度の人数が欲しいと考えるか目標を設定し、バックキャストिंगにより目標の人がまちに来るために何をすべきかを検討する必要がある。数値設定を含めて、何を目標とするかを示していただきながら議論ができればよい。

さらに、単に数値を積み上げるだけではなく、それがどのような人なのかを考えることも非常に大切である。甲府にどのようなナレッジ（知的価値）をもたらしてくれる人がリニア駅周辺に呼び込めるかを考えると、それが単なる人数から甲府の価値向上に繋がる人の人数になる。このように、具体的にどのような人達を呼び込むべきかの像に加えて目標とする量を一緒に考えるとよい。是非その検討を進めていただきたい。

広域のスケールで考えると、品川や名古屋大阪圏の遠方から訪れる人はナレッジを持ってきて、様々なことを山梨でやってくれる、或いは遠方でそのような活動を行い、その情報を山梨に持って帰ってきてくれることが考えられる。また、甲府都市圏は、他都市圏と比較して、県庁所在地に人口があまり集中せず分散型の都市圏である点をポジティブに捉えれば、周辺市町村に極めて魅力ある資源や人が多くあるということなので、リニア駅が周辺との結節点の役割をどのくらい果たすべきか等、山梨エリア全体の中でどのような人が必要なのかを考えながら数字を積み上げることが重要となる。

もう少し小さいスケールで考えると、甲府中心街とリニア駅との関係が極めて大切でありセットで考える必要がある。甲府中心街にある機能や役割に対して、リニア駅にどのような機能や役割が必要なのかは常に相互関係にある。何よりも甲府中心街とリニア駅の移動がスムーズにできる必要がある。

さらに、リニア駅周辺のスケールで考えると、今回の検討区域周辺は市街化調整区域であり、駅周辺のまちづくりが周辺に開発という形で波及し難い課題がある。他方で周辺部には既存の魅力ある施設や機能があることから、例えば

一次産業の最先端施設を整備する等を考えて、周辺を巻き込むことを前提としたまちづくりの在り方を考えないと孤島化してしまう。周辺との関係を検討してほしい。

今回の検討区域では基本方針1, 6, 8が新しい実装、魅力的な都市空間、駅の価値向上を掲げている。これらの方針を実現するためには駅を含め南北が一体でまちづくりを進めていくことが極めて重要と考える。さらにスマートインターチェンジも整備されるので、大きなアドバンテージをもったエリアといえる。便利でシームレスな乗換を重視することも大事だが、リニアが来るまでの待ち時間を考えると、エリア内での活動や交流により知が生まれるなど、人の結びつきの接点を生み出さうる場として活かしていく必要がある。例えば、待ち時間に居酒屋に寄り、予定の電車を1本（1時間）遅らせて交流を生む、インターチェンジで一旦降りて活動してもらうなど、エリア内の活動が接点となるチャンスが多くある。それを取り逃さないためには北側にもまちとしての顔が見えたほうがいい。難しい面はあると思うが、使われ方を工夫している例は全国に沢山ある。具体的には、「道の駅」等を導入して、リニア駅とスマートICが両方ある利点も生かしながら単なる乗換結節点にしないことや、「バスタ事業」による複合利用を考える等、北側と駅と南側が連動して一体的にスムーズに使い相乗的な効果が上がるような関係性を考えることは極めて重要である。

○委員

リニアの乗り物としての意義は、500km/hで走り、駅は空港と同様の価値を持つ点である。この点を意識して、便利さだけでなく、今ある魅力を利用して、どのように地域を活性化していくことが大事だと思う。

補足資料のように人や機能をイメージすることは大事であり、外からこのエリアに誰が来て何をするのかをイメージし、加えてこのエリアに住んでいる人が外に行き何をするのかを考える必要がある。

外から来る人であれば、山梨は実体のあるものを作る仕事が上手なものづくりの地域である。この仕事は今後もなくなることはないし、山梨で発展させないといけない。ものづくりの技術も常に進化しているため、人、モノ、金、情報を知る人達にどうやってこのエリアに来ていただくかを考えなければならない。2027年以降の未来を見たときにこのような視点で見ることが大事だと思う。

加えて、多くの課題があるので簡単には決められないと思うが、様々な視点でキャパシティはどうするのかを決めていく必要がある。景色で言えば、今は八ヶ岳や南アルプスがきれいに見えるのに、6階建て程度のリニア駅ができるとこれが失われると思う。このように、高さ規制、景色、風、光などそれぞれのキャパシティを考えながら検討していくことが必要になる。

○委員

現状では鉄道利用者でもビジネス利用が多く、かつコロナ禍でライフスタイルも大きく変わったため、リニアができることで研究機関を誘致する可能性も

高まると感じた。ただし、そのためには誘致する際になぜリニアで移動しなければならないのか、なぜ山梨か、等の理由付けがしっかりしていないと、チャンスがあっても山梨を選んでもらえないと感じる。

観光利用者はリニアが観光ツールにもなり増えてくると思う。特にインバウンドの観光は現状では富士五湖方面が大部分だが、リニアが開通すると甲府盆地側の国中地域にもかなり流れてくると思う。今は観光資源とっていないものも SNS の発展によって、海外の方には観光の目的になるような傾向もある。そのようなことも意識しながら、リニアで来た海外の方に少しでも国中方面に観光していただくために何が必要かを考えることも駅前に必要な機能を考える際の視点になると思う。

○委員長

資料ではあまり触れられていないが、富士五湖方面の観光客との関係性をどのように整理し、リニア駅を結節点にしてどのような形で観光客を呼び込むかは八ヶ岳を含めた圏域の中での行動パターンとして考えていく必要がある。

○委員

リニアも観光の資源にもなりうるが、日本人は何年か経てば慣れて魅力を感じなくなってしまう。また、外国人はリニアに乗っても甲府で降りないという課題も予想される。他の地域にも波及する観光という目線では、二次交通の議論は避けて通れない。リニア駅からどのように富士五湖方面に行くのか。リニア駅のある品川まで行かずとも新宿から直通バスが出ている。北杜市方面にしてもリニア駅からの交通手段がないと、在来線のほうが行きやすく、リニア駅を利用してもらえない。

また、インバウンド需要獲得に向けた高付加価値化の話も考えた場合ヘリポートの整備や近未来を見据えて空飛ぶ車などに対応できるような整備を前提にする必要がある。

まちそのものを観光資源として利用するかも重要な視点である。リニア駅が景観が阻害されるほど高いのであれば例えば360°見渡せる展望タワーを作るなども考えられる。情報は SNS で調べることができるので、何か目的があってリニア駅で降りる人がほとんどになると思う。その目的をどのように作るのかや、まちを観光拠点として整備するのか等も前提として考える必要がある。

○委員

圏域の議論の中で富士五湖という言葉が少ない。観光を考えると現状は富士五湖方面が多くの人を寄せ付けているので、視点は必須である。今は富士五湖方面への移動は、新宿から JR と富士急行を使うと最短2時間かかる。新宿から中央自動車道で来た場合でも1時間45分かかる現状を見れば、25分で甲府につく点は観光客にとって魅力となる。

観光面に力を入れなければ、リニア山梨県駅を使う人は結果として少なくなると考える。県が推計したリニア駅乗降客数推計を実現するためには、1便あ

たり420人程度の人を乗降させる必要があり、これを達成するのは難しい。

高速バスが名古屋方面からのアクセス性が低い点は以前から課題であり、この点をカバーできるのがリニアである。日本中央回廊のハブとして大々的にリニア山梨県駅を売っていくことが重要と考えている。

インバウンド需要は富士五湖方面が多く、リニアが開通すれば日帰り客も多くなるので、二次交通のバスを様々な方面に出し、京都のようにいろいろなコースを設定し、山梨を楽しみ、喜んでいただくお客様を増す工夫が必要である。

○委員

リニアを使い短時間で甲府まで来た後の二次交通で県内各所に行く際に、リニア駅の近くで渋滞が発生することが懸念されるので、この視点でも検討が必要である。

○委員長

今回の資料では周辺交通に関する情報は少ないが、実際問題として新山梨環状道路も朝方は渋滞している。リニア開通後にどのような交通動態になるかも重要な視点である。

○委員

この地域は水害が懸念され、かつ、地下水位が高い。地下水の豊富さを利点として工場立地した企業もあると聞く。地下水位が高いと液状化が懸念され、実際にリニア駅周辺も液状化の危険が高いエリアである。液状化が発生すると、対策していない場合は建物の多くが傾く等被害が発生する。高速道路やリニア駅はそれぞれ対策を講じても、周辺のまちが対策していないと結局、駅や高速道路も機能しなくなるので、地震やそれに伴う液状化対策をどう考えるかは記述が必要。一方で、液状化対策が地下水位に与える影響についての技術的な課題もある点には留意が必要である。

さらに富士山噴火も視野にいれてリニアがどう活用できるかも視点として必要である。前回の宝永噴火は、過去5600年間の富士山の噴火の中では特殊であり、次の噴火がどのような様式や規模になるかがわからない状況である。仮に宝永噴火と同様の噴火が起こると、火山灰が周囲に広がり首都圏にも大きな影響を与える。ただし、リニアは騒音対策もあり火山灰が直接軌道に入らない構造と推察しているため、結果として噴火対策も兼ねることになり、復旧も比較的容易というプラスの側面もあるかもしれない。

山梨における防災バックアップ拠点としての役割は支援の拠点となる。首都圏が被災した場合でも山梨が同時に大きく被災する可能性は低く、距離も近いため、リニアがあれば品川まで迅速に人材を送り込むことができる。このように首都圏と同時に被災しない、時間距離も近い、リニアは災害復旧が早い、高速道路とSICで直結しているなど様々な強みがあるので、駅前の開発を考える上でも重要なポイントになる。

観光では富士五湖方面に観光客は多いが国中地域や八ヶ岳は少ないことが大きな課題である。リニア開通はこの課題を一気に解決できる可能性があるので、そこは強調しすぎても足りないぐらいに強調してほしい。外国人は誰でも富士山であれば知っているし、実際に目的地になっているので、リニアと富士山の二次交通をどうするかを考えることが重要となる。

関西方面から山梨へのアクセス利便性はとても低い。補足資料でアウトドアを行う人物像の話があったが、例えば登山客はほとんどが自家用車で夜中に到着し早朝から登り始める行動パターンになるが、本当はお酒も飲みたいし公共交通で完結できればいいと思っている人もいるが、現状その手段がない。イメージした利用者像のニーズを反映させた二次交通を整備していかないと、ポテンシャルがあるのに活かしきれないという状況になりかねない。山梨は非常に魅力的な観光資源があるが、これらが有機的に繋がらず、移動手段も貧弱で活かしきれないと感じる。リニア開通に合わせてうまく結びつけることができれば価値も最大化できると思う。

○委員長

利用パターンも含め、様々な目的や使い方で二次交通をどのように整備するかが重要という意見を多くいただいた。行動パターンと合わせて考えていく必要がある。

観光も圏域の意見が多かった。現状、富士五湖方面にインバウンド観光が集中している中で、どのように他のエリアに需要を広げていくかという課題が、リニア駅周辺の整備によって解決できる可能性もある。山梨県全体に波及効果が得られるような二次交通とまちづくりを考えてもらいたい。

市の方針の「触媒的な」という視点では、滞在してもらうことは重要である。1時間に1本しかないことを強みとして、時間の使い方を意識するとよい。行動パターンの中でどのような結節点としての機能が求められるのかをレビューする必要がある。

また、既に発生している行動パターンがリニア開通による時間距離短縮を受け、どう変わるかという視点が多かったが、まったく別の視点でも考えてみることも必要と感じている。例えば、若い人の価値観にフィットさせるのか、良さをわかってもらうのかを今後検討していければよい。

ポテンシャルのある場所なので、その活用方法が重要になってくる。様々な意見をいただいたので意見を踏まえ、資料のブラッシュアップをお願いする。

議題3 その他

特になし。